



TOHOKU EPO通信

[エポ]
東北環境パートナーシップオフィス



vol. 11



「ブナ太郎」

幹回りは約5.6m。苔むした幹が雰囲気を感じさせます。
噴火の影響が少ない場所にはこんな巨木が残っています。

【2009.5.19 裏磐梯】

【裏磐梯自然保護官事務所】 小長井 崇大 氏

Contents

※ 東北の豊かな生物多様性

「生物多様性とは」

「COP10」

「身近な生物多様性」

※ eco*gift

※ 東北6県EPOトピックス

東北環境パートナーシップオフィスとは

東北環境パートナーシップオフィス（略称：EPO東北）は、東北地域の環境活動を促進するために、人と人をつなぐ拠点となることを目的としています。さまざまな分野の人や組織が垣根を越えて協働できるよう、地域の環境情報の発信と交流機会の提供を行い、活動の広がりや新たな取り組み創出のきっかけ作りを担います。たくさんの方がEPO東北をきっかけに出会い、新たな環境活動の環が広がるよう、皆さんのパートナーシップ作りを支援します。

東北の豊かな生物多様性



うすぎやま 「白木山のぬし」

じっとこちらをみてからゆっくりと姿を消していきました。白木山を守っているようにも感じられました。

【浄土ヶ浜 2008.2.24】

【宮古自然保護官事務所】高屋敷 七恵 氏



「目の前に現れたのは…」

昼間に姿を現してキノコを食べる、
可愛いモモンガ。

あれっ!? 夜行性じゃなかったっけ?

【太川 2008.9.24】

【西目屋自然保護官事務所】檜垣 育子 氏



「モズのはやにえ」

自分の身体ほどのネズミを枝に吊してその身を引き
千切って食べていた衝撃的な場面。

命が繋がっていくワンシーン。

【国指定大湯草原鳥獣保護区内のとある道路沿い 2009.4.24】

【秋田自然保護官事務所】足利 直哉 氏

東北地方には世界自然遺産
に登録された白神山地をはじめ
とした、北上高地、奥羽山脈、
出羽山地、阿武隈山地などの
山々、それらを源流とする北

上川、最上川、阿武隈川といっ
た雄大な河川、さらにその河
川から流れ込む森からの恵み
を受けた海、ラムサール条約
に指定されている七つの湿原

などさまざまな自然環境があ
ります。そこにはそれぞれの
環境に適応した生態系が形成
されていて、つながり合いな
がらその生命を育てています。



さんのういわ 「三王岩」

男岩（中央）女岩（左）太鼓岩（右）

干潮時に男岩まで渡りトンネルをくぐると幸せになる!
といわれています。

【三王 2008.7.2】

【宮古自然保護官事務所】高屋敷 七恵 氏



だいにちだけ 「大日岳の展望」

夏まで多くの残雪が残る飯豊連峰（いいでれんぼう）
の最高峰です。

360度の大展望が広がっています。

【飯豊連峰・御西岳 2008.8.7】

【羽黒自然保護官事務所】佐々木 大樹 氏



ちようし おおたき 「銚子大滝」

滝を撮影する時に誰もが一度は試すスロー
シャッターを切ってみました。迫力は伝わって
いますでしょうか?

【奥入瀬溪流 銚子大滝（おいらせけいりゅう ちようしおおたき）
2008.8.13】

【十和田自然保護官事務所】村田 野人 氏



「生物多様性とは」

生きものの「個性」と「つながり」です。地球上の生きものは、さまざまな環境に適応して進化し、3,000万種ともいわれる多様な生きものが生まれました。

生物多様性には「生態系の多様性」・「種の多様性」・「遺伝子の多様性」があり、それらによりもたらされる物質循環などの「基盤サービス」、食料や水・木材などの「供給サービス」、気候などの「調整サービス」、レクリエーションなどの「文化的サービス」といった「生態系サービス」によって私たち人間を含む生きものの「いのち」と「暮らし」が支えられています。

ところが、開発や乱獲による種の減少・絶滅、生息・生育地の減少、里地里山などの手入れ不足による自然の質の低下、外来種などの持ち込みによる生態系のかく乱、さらには地球温暖化による影響で、たくさんの生きものたちが危機に瀕していて、生物の多様性が、これまでにない速さで失われつつあります。

今、この自然の恵みを未来へとつないでいくための行動が必要とされています。

EPO東北では、2010年10月、愛知・名古屋で開催される「**COP10**」の関連事業である「生物多様性交流フェア（生物多様性条約第10回締約国会議併催屋外展示会）」に参加する予定です。（※詳細については、ホームページ等でお知らせいたします。）

COP10



COP（Conference of the Parties）とは、生物多様性条約締約国会議の略称です。国際条約を結んだ国が2年ごとに集まり、生物多様性の保全を目的としたルールを決める国際会議です。第10回となる締約国会議「COP10」が、2010年10月、愛知・名古屋で開催されます。

【COP10：会議概要】

期間：2010年10月11日（月・祝）～29日（金）

会場：名古屋国際会議場（名古屋市中熱田区）

関連事業会場：白鳥会場、愛・地球博記念公園、栄地区

生物多様性条約第10回締約国会議

（COP10）：18日（月）～29日（金）

主催者：生物多様性条約事務局（カナダ・モントリオール）と開催国政府

参加者：約8,000名（国連関係者・各国政府関係者・NGOなど）

◆COP10での主な議題：

2010年目標の達成状況の検証及び新たな目標の策定

遺伝資源へのアクセスと利益配分（ABS）に関する国際的な枠組みの策定 など

*交流フェア in 白鳥地区

生物多様性のために「集う場」として設けられる『生物多様性交流フェア』では、生物多様性をテーマとした国際的な発表・交流展示会が行われます。

*地球いきものEXPO in モリコロパーク

生物多様性を「体感し、行動する場」として設けられる『地球いきものEXPO』では、NGO・NPO、企業、行政機関などのさまざまな主体が生物多様性に関する取り組みなどの展示・発表を行います。

詳しくはHPをご覧ください。

<http://www.cop10.jp/aichi-nagoya/index.html>

生物多様性関連リンク集

環境省 生物多様性
環境省 自然環境局 生物多様性センター
インターネット 自然研究所
いきものみつけ
里海ネット

<http://www.biodic.go.jp/biodiversity/>
<http://www.biodic.go.jp/>
<http://www.sizenken.biodic.go.jp/>
<http://www.env.go.jp/nature/mikke/index.html>
<http://www.env.go.jp/water/heisa/satoumi/>

「EPOサロン」はCOP10パートナーシップ事業に登録しています。

身近な生物多様性

EPO東北では、毎日の暮らしと生物多様性がつながっていることを学び、エコ行動へとつなげるきっかけづくりをしようとする市民を対象に「EPOサロン」を開催しています。私たちの毎日の暮らしと密接な関わりをもつ、実は身近な問題に五感を使って触れてみましょう。

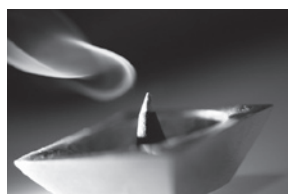
パートナーシップ事業



お香 × 生物多様性

リラックス効果を求めて密やかに人気を集めるお香。古い歴史を持つ日本の伝統文化『香道』は、四季を味わいながら香りを楽しむスローライフでもあります。

皆さんは四季を感じ、五感を使って生活していますか？香道には生物多様性はもちろん、日々の暮らしと環境をつなぐ接点のヒントがたくさんありました。



伝統食 × 生物多様性

毎日の食と生物多様性はとても密接に関わっています。私たちの食べるものはすべて多種多様な生き物であり、日本ではその食材の多くを輸入しているため、世界中の生物多様性に依存しています。

今回は地元の旬の食材を余すことなく使う『伝統食』を取り上げ、地域の食と生物多様性のつながりを考えました。



eco * gift

大切な人に贈りたい、エコギフト
嬉しい日の贈り物やお返しに、地球に
やさしいエコギフトを選びましょう。

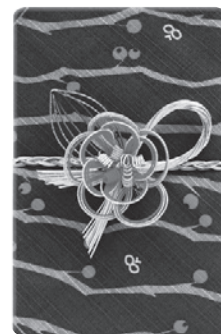


もらった人が再利用 できるエコ祝儀袋

すてきなご祝儀袋、でも
贈った後は…？
布製のご祝儀袋なら
お祝いの記念にもなりますね。

オーガニックコットンで出来たご祝儀袋 (¥1,575)

「フォーラムアート有限公司」
<http://www.forumart.jp/>



小ぶりの風呂敷で作ったご祝儀袋
「Konuno 金封」(¥1,800)



ガーゼハンカチのミニサイズご祝儀袋
「Konuno 金封ふち」(¥680)

お年玉やちょっとしたお祝いのポチ袋もエコに。

「ご祝儀袋.com」(運営：流美)
<http://www.gosyugi.com/index.html>

植樹ギフト「エコロギフト」

購入金額が植樹費にあてられ、受取者に植樹証明書とメッセージカードが届く
みどりのギフト。フレームには間伐材や国産の木を使用。「おめでとう」の
気持ちが社会貢献につながります。 ※植樹地 白神山系～岩木山／白神山～西目屋村生田～



「植樹ギフト」スタンダード
結婚式のウェルカムボード (¥10,500～)

「株式会社レインボー・ジャパン」
<http://www.ecologift.jp/>

ハチドリ印のエコグッズ

アマゾンに伝わる神話

「ハチドリのひとしずく」から生まれました。
南米エクアドルからのフェアトレード商品と、
「わたしにできること」の
象徴ハチドリ印のエコグッズです。

「Slow Water Cafe Ltd.」
<http://www.slowwatercafe.com/index.html>



ハチドリ印のガーゼハンカチ
(¥500)



『ハチドリの雫』コーヒーセット
(¥1,470)



ハチドリ印の水筒
(¥2,600～)

農業高校を拠点とした北東北温暖化防止地域ネットワークの形成事業

農業高校を拠点に、温暖化防止のための幅広い世代、各セクター参加による温暖化防止活動のネットワークづくりを進めています。

青森県では温暖化防止一村一品運動県民大会での高校や大学、小・中学校での取り組みは高い評価を得ているものの、協力は個別的でその多くが学校単位での取り組みに留まり、県民の温暖化防止活動に対する認知度も十分なものとはなっていませんでした。

「あぐりていーんねっと あきたとあおもり」はそのような背景から、農業高校を拠点とし、世代や地域産業を結ぶ温暖化防止活動のネットワークの形成と、農業高校、地元大学、機械メーカー等の協働による農工商連携やグリーン産業を起業する人材育成の輪を広げることを目的に、平成21年度から地球環境基金の助成金を得て活動を行っています。



今年度は県域を超え秋田県大曲農業高校とも連携し、活動の輪を北東北に広げています。

命を生み出す産業「農業」を通じて、地域の世代が結びつき、大学や農商工事業者が結びつくネットワークが形成され、地域協議会へ発展することで、より身近な温暖化防止活動が展開できるようになることをめざし

東北6県 青森 EPOトピックス

特定非営利活動（NPO）法人
青森県環境パートナーシップセンター

- 〒030-0801 青森市新町1-13-7 和田ビル3F
- TEL: 0178-22-1507 FAX: 0178-45-8230
- HP: <http://www.eco-aomori.jp/>
- E-mail: info@eco-aomori.jp
- 寄稿: 三浦 麻子 氏

ています。

すでに、農業高校をフィールドにした地域の小・中学校や保育所、幼稚園との協働により、子ども達に生命産業への関心や温暖化防止活動の重要性への理解を広めてもらう活動をしました。

このように、コミュニティや家庭へ温暖化防止の意識や活動情報を伝える回路を広げ、さらに温暖化防止高校生提案起業化プロジェクトの推進により、農業高校生の地域貢献意識や職業生活への興味と自覚を高め、地域の農商工連携プロジェクトの展開で、青森県、北東北におけるグリーン産業の活性化を推進するための活動を行っています。

「北いわてのスローツアー」から「森の暮らし」へ

「森と風のがっこう」を活動拠点に、地域の暮らしにまなびながら持続可能な暮らし方を実践、提唱する取り組みを進めています。



「グリーンツーリズムのパッケージプログラムとは一線を画し、土地の重層的な記憶とそこに流れる豊かな時間感覚にふれるツーリズムを私たちはあえてスローツーリズムと呼びたい。」このように北いわてのスローツアーを位置付け、山村の技や知恵

を再現してきた「バッテリー村」、山村の伝承記録映画を創り続けてきた「山根六郷研究会」、自然エネルギーを取り入れた循環型の生活を実践する「森と風のがっこう」の3団体が連携し、北いわての地にこだわり、人と人、都市と山村の縁をつなぎ、そして、持続可能な地域社会の未来を、この地から切り開いていきたいという思いから2005年より実施してきました。

当初は、生活の基本である衣食住を大切にする伝統的な山村の暮らしを体験する内容に始まり、自然エネルギー、パーマカルチャー、ものづ

東北6県 岩手 EPOトピックス

特定非営利活動（NPO）法人
岩手子ども環境研究所（森と風のがっこう）

- 〒028-5403 岩手県岩手郡葛巻町江刈42地割17番地
- TEL: 0195-66-0646 FAX: 0195-66-0646
- HP: <http://www.5d.biglobe.ne.jp/~morikaze/index.html>
- E-mail: morikaze0@gmail.com
- 寄稿: 泰原 豊氏

くりから身体まで扱うテーマが次第に広がってきました。

2009年からは、森と生活をテーマに内容を発展させ、「森の暮らしプロジェクト」として新たなスタートを切りました。地域にある豊かな森林と私たちの暮らしの関係を見つめ直すワークショップの他にも、森林資源を活かした商品開発にも着手し、地域内の小さな経済の循環までを視野に入れた取り組みへと展開しつつあります。

「エコプロダクツ東北2010」 heaven & earth ～天と地のめぐみ～

CO₂削減に向けた国内の企業努力や新しい技術の発表の場、小中高学生に対する環境教育の場。それが「エコプロダクツ東北2010」です。

東北最大級の環境展示会「エコプロダクツ東北2010」は、2010年10月14日（木）、15日（金）、16日（土）の3日間、夢メッセみやぎで開催します。本年度で5回目、「環境メッセ東北」から通算13回目の開催となり、多様な分野・業種が一堂に集結します。出展者の誇る技術やシステム、製品、サービスから研究成果に至るまでの最新の情報を広く内外に紹介します。

【エコプロダクツ東北2009】

実績：118社、176小間

来場者数：28,429人 入場無料

政府が掲げるCO₂-25%削減を実現するためにも、環境配慮活動を企



業だけに頼ることなく、行政、自治体、NPO、学生、そして市民の力を結集して行うことが必要です。

併設イベントは、経済産業省が主催するセミナー、宮城県が主催する環境学習こどもエコツアー「エコブース探検隊」、三井物産環境基金の助成を受けて開催する小中学生対象の「環

東北6県 宮城 EPOトピックス

特定非営利活動（NPO）法人
環境会議所東北

●〒981-3121 宮城県仙台市泉区上谷刈3-10-6
●TEL：022-218-0761 ●FAX：022-375-7797
●HP：http://www.kk-tohoku.or.jp
●E-mail：kk-tohoku@kk-tohoku.or.jp
●寄稿：古内 昭子氏

境科学教室「環境フォトコンテスト」「環境標語大賞」があります。高校生の環境コンテスト「環境甲子園」は今年で10回を迎え、東北六県から多くの応募があります。

“見て 学んで やってみる”ぜひ、ご来場いただき体験してみてください。

「エコプロダクツ東北2010」
http://www.e-products.jp/2010/



食育café ～絵本の中のお菓子作り～

絵本の中に登場するいろいろな「お菓子」を題材に、実際にそのお菓子作りの体験を通じて、五感を使って食育の大切さを伝えています。



親にとって子どもが小さい頃は食の悩みも多い。「好き嫌いがある」「ムラ喰いをする」など、悩みの内容もさまざまだが、何よりも「食」の入口である乳幼児期に、親子で楽しく「食」に関わる事が重要と考えている。

そこで絵本の中のお話に出て来る「お菓子」を題材に、実際にお菓子づくりを体験しながら、五感を使って

「食」に楽しく関わる事の大切さを伝えたいという思いから「食育Cafe～絵本の中のお菓子作り～」は始まった。

これまで、「ぐるんぱのようちえん」のおおきなびすけと、「ぐりとぐら」の黄色いカステラなどの題材を取り上げ、親子でお菓子作りをした。

お菓子ができあがるまでの間、絵本の世界観を広げるために、読み聞かせの活動をしている田丸美穂さん（元こども図書館司書・秋田県子ども読書支援センター）に協力を得て、絵本の読み聞かせや、お話の背景に関するエピソード等の紹介もしている。お話に出てくるお菓子を作る事で、子どもの興味もぐんと広がっているようだ。

お菓子が焼きあがってくると、甘い匂いが部屋中に広がってくる。鼻を

東北6県 秋田 EPOトピックス

特定非営利活動（NPO）法人
あきたNPOコアセンター

●〒010-0917 秋田県秋田市泉中央4-12-3
●TEL：018-862-5969 ●FAX：018-862-5969
●HP：http://www.akitanpo-coa.jp/index.html
●E-mail：
●寄稿：山崎 純氏

クンクンさせ「美味しそうな匂いがしてきたね。もう少しでできるかな」など親子の会話も弾む。

NPO法人あきたNPOコアセンターでは、この他に県内の幼稚園や保育園に行き、園児向けに食育のお話しもしている。





山形県グリーン・ツーリズム推進協議会 と活動の概要について

「やまがた的グリーン・ツーリズム」ゆっくりと時間が流れる、山形の大地に触れてみませんか？

当協議会は、1995年6月に発足しましたが、当時は実践者もまばらな草創期のため、県を中心に、市町村や関係団体のみで構成する組織としてスタートし、事業も普及啓発活動と実践者の掘起しが主でした。

その後十年間、実践者の拡大とネッ



トワーク化の進展に応じ、順次実践者主体の組織への転換が図られ、平成17年度から役員は全て実践者から選任され、事務局も県の組織から分離しております。

また、県による支援のスタンスも農業の総合産業化という位置づけを保ちながらも、観光産業の一分野として振興する方向に変わって今日に至っております。

協議会の事業としては、ホームページの運営、ニュースの発行及びテレビやフリーペーパーによる実践者の取り組みやイベント等に関する紹介、山形駅西広場での朝市、スタンプラリー等の開催で情報発信しています。

東北6県 山形 EPOトピックス

山形県グリーン・ツーリズム推進協議会

- 〒990-2473 山形県山形市松栄1-7-48
山形県土地改良会館別館内
- TEL: 023-647-8351 FAX: 023-647-8352
- HP: <http://www.gt-yamagata.com/>
- E-mail: gt-yamagata@festa.ocn.ne.jp
- 寄稿: 落合 敬一氏



同時に、着地型旅行商品開発に向けた地域資源のブラッシュアップ、人材育成研修等も精力的に行う他、地域では実践者のネットワークづくり、先進事例の収集、市場調査等を行いながら受入態勢の整備を図っております。

猪苗代湖をきれいにしようプロジェクト

ふるさとの宝、猪苗代湖の水質日本一復活をめざす活動を支援しています。取り組みは、3年目に入り、連携の輪も広がってきました。

2007年秋、それまで環境省の調査で4年連続“水質日本一”だった猪苗代湖が、突然トップの座から姿を消しました。福島中央テレビの「猪苗代湖をきれいにしよう」キャンペーンはこれを契機に始まりました。

福島宝物ともいえる猪苗代湖に、一体何が起きているのか、翌年から報道部が長期取材に取り組み、水質汚濁の現状や地域の人たちの保全活動を丹念に取材し、特集企画はすでに20本を超えました。特別番組の製作も8本を数えます。

一方で、同じ年の夏から県民のみなさんに呼びかけて湖岸清掃活動も始めました。毎年200人ほどの県民ボランティアが参加してくれます。

現在は、福島の元気を応援するプ

ロジェクト「熱中！ふくしま」の柱のひとつに位置付けて展開していますが、今年8月から始まる民間団体中心の水質改善対策「水草回収プロジェクト」では、地元の新聞社とも連携して支援していくことになりました。



活動が3年目に入り、湖を守る活動に取り組む民間の人たち、自治体

東北6県 福島 EPOトピックス

株式会社 福島中央テレビ

- 〒963-8533 福島県郡山市池ノ台13-23
- TEL: 024-923-3300 FAX: 024-923-4031
- HP: http://www.fct.co.jp/team_fukushima/lake_index.html
- E-mail: eco@fct.jp
- 寄稿: 駒木根 尚氏

のみなさんとも繋がりができてきました。共通の目的は、当面、水質日本一の復活ですが、「猪苗代湖をきれいなまま次の世代に伝えたい」という思いをできるだけ多くの人たちと共有できるよう、もうしばらくお手伝いをしたいと考えています。



*EPO 東北オフィス利用案内

◆新聞情報、各種パンフレットの閲覧

東北6県の環境にまつわる記事を分野ごとにファイリングしています。各種パンフレットやイベントチラシとあわせてEPO東北オフィスで自由に閲覧していただけます。

◆ミーティングルーム貸し出し

環境活動に関するミーティングや催事に無料で貸し出します。

【要事前予約】利用人数：30名まで

※詳細はWeb-Siteでご確認いただけます、電話・FAX・メール等でご予約ください。

開館日

月曜日・・・金曜日

開館時間

10:00・・・18:00

* Web-Siteのご案内

2010.4.21
リニューアル!

- ・東北6県のイベント情報
- ・助成金情報
- ・EPO東北の動き
- ・『ESD』『生物多様性』

などの情報を掲載しています。

皆さんからの情報提供はもちろん、「こういう情報も載せて!」というリクエストも大歓迎です。お気軽にご連絡ください。

メールマガジン登録者募集中!!

2010.6月～リニューアル配信中

発行：毎月月上旬 登録：無料

- ・EPO東北オフィス情報
- ・東北6県で行われている環境活動のピックアップ情報
- ・環境イベント情報

などを配信しています。

* EPO 東北のパートナーシップ団体

EPO東北は各県で環境活動を進める団体の協力を得て運営しています。

青森県環境パートナーシップセンター	http://www.eco-aomori.jp/
環境パートナーシップいわて	http://www.iwate-eco.jp/
環境あきた県民フォーラム	http://www.eco-akita.org/index.html
環境ネットやまがた	http://eny.jp/
超学際的研究機構	http://www.chogakusai.ecnet.jp/
せんだい・みやぎNPOセンター	http://www.minmin.org/
環境会議所東北	http://kk-tohoku.or.jp/

環境イベント情報・活動情報 募集中

EPO東北では皆さんが企画した環境イベント、東北で活動する環境団体の情報を集めています。イベントチラシ、メルマガ、会報誌、冊子などをお寄せください。EPO東北のオフィスやWeb-Site、メールマガジンでご紹介させていただきます。皆さんからの情報提供をお待ちしています。

運営団体について

EPO東北は2010年4月から東北地方環境事務所（環境省）と財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON）が協働して運営しています。

- 東北地方環境事務所（環境省） <http://tohoku.env.go.jp/>
- 財団法人 みやぎ・環境とくらし・ネットワーク（MELON） <http://www.melon.or.jp/melon/>
みやぎで地域やくらしから環境を考え、地球環境に寄与しようと生まれた環境NGOです。
水や緑、食、スポーツとエコなど、毎日のくらしや地域から環境を考え、たくさんの人をつなぎ環境活動を広めています。



EPO TOHOKU

東北環境パートナーシップオフィス
Environmental Partnership Office TOHOKU

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町2丁目5-1 オークビル5F
TEL: 022-290-7179 FAX: 022-290-7181
E-mail: info@epo-tohoku.jp URL: <http://www.epo-tohoku.jp>

勤務時間：月曜日～金曜日【9:30～18:00】
休 日：土曜・日曜・祝日・お盆・年末年始



リサイクル適性(A)
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。